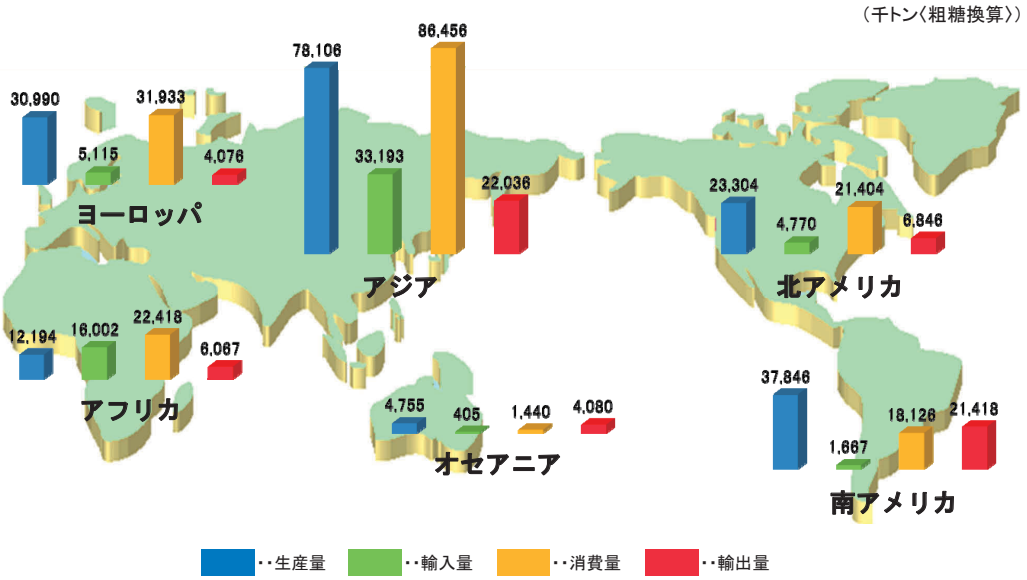
需給動向

砂糖の国際需給

調査情報部　坂上　大樹、塩原　百合子

1．世界の砂糖需給（2019年６月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2018/19年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2019」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表１　世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、％）

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,048	160,315	56,023	164,782	56,244	50,359	30.6
2013/14	63,358	184,058	58,323	175,156	61,044	69,539	39.7
2014/15	69,539	183,717	59,707	176,511	62,081	74,371	42.1
2015/16	74,371	175,955	67,776	179,662	69,077	69,364	38.6
2016/17	69,364	180,387	70,759	181,580	71,288	67,642	37.3
2017/18	67,642	195,054	66,554	180,304	69,383	79,562	44.1
2018/19（2019年3月予測）	79,748	188,706	62,662	183,289	64,945	82,882	45.2
2018/19（2019年6月予測）	79,562	187,194	61,153	181,777	64,524	81,608	44.9

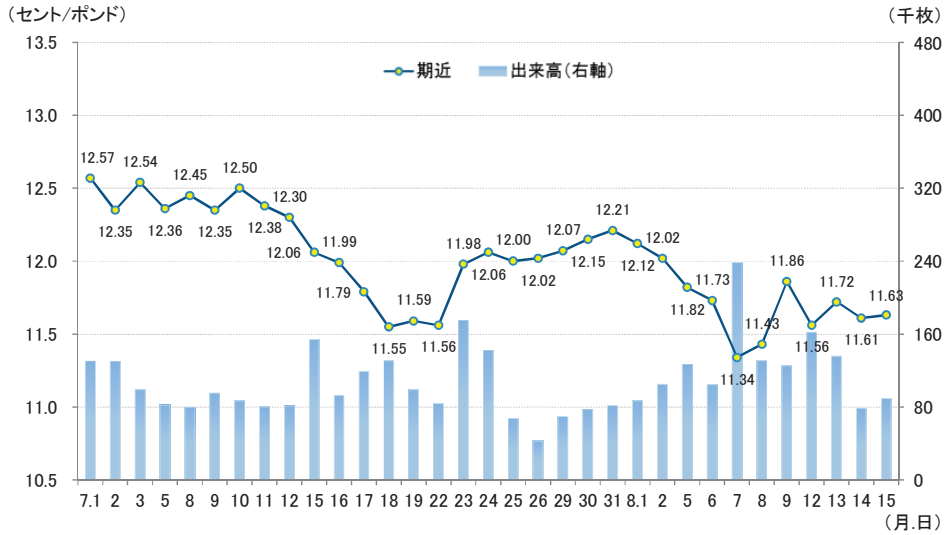
資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2019」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：2017/18年度および2018/19年度は予測値。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注４：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2019年７月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001996.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001997.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（7/1 ～ 8/15）
～ 11カ月ぶりの安値水準まで下落～

図２　ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年７月の推移を見ると（10月限（がつぎり））、１日は１ポンド当たり12.57セント（注１）の値を付けた。その後は、収穫が最盛期を迎えるブラジルの生産状況や原油相場の動向（注２）を見極めようと全般的に様子見ムードが広がり、取引が低調に推移した結果、相場は方向感が定まらない展開となった。その後、11日は同12.38セント、12日は同12.30セントと続落した。週明けの15日以降は、砂糖の主要生産国であるインドが新年度となる2019年10月以降も、砂糖の輸出拡大を目的とする政策支援を継続する意向を示唆したことが引き金となり、相場の下落が止まらず、18日には2019年５月以来の安値となる同11.55セントとなった。23日は、ブラジルの製糖業者がエタノール生産を優先し、砂糖を大幅に減産するとの観測から反発し、前日比0.42セント高の同11.98セントとなった。その後は、相場の動向を見極めたいとの思惑から再び取引が低調となり、同12セント台前半で推移した。

８月に入ると、２日までは前月の流れを引きずって推移したが、週明けの５日から週半ばにかけては、供給過剰への懸念が再び強まり下落し、７日には同11.34セントと同11.50セントを割り込み、11カ月ぶりの安値を付けた。その後は、売られすぎの反動から上昇に転じ、９日は同11.86セントを付けた。しかし、週明けの12日は反落し、同11.56セントの値を付け、その後は全体的に買い支える材料に乏しく、同11セント台半ばでのもみ合いとなり、15日は同11.63セントとなった。

（注１）１ポンドは約453.6グラム、セントは１米ドルの100分の１。

（注２）一般に、原油価格が下落すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が低下する。バイオエタノールへの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減るため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が増える方向に作用する。その結果、需給緩和の懸念が強まり、商品相場は下落する傾向にある。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年８月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年７月末日TTS相場の値であり、１インド・ルピー＝1.74円、1ユーロ＝123円（122.69円）である。

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：847万ha（前年度比2.0%減）
生 産 量：６億2900万トン（同1.3%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：3014万トン（同3.7%減）
輸出量：1950万トン（同7.0%減）

2019/20年度、輸出量はかなりの程度減少する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年８月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は砂糖の国際相場の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、847万ヘクタール（前年度比2.0%減）とわずかに減少する見込みであるものの、生育状況がおおむね良好であることから、サトウキビ生産量は６億2900万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込まれている（表２）。

砂糖の国際価格の低迷が長期化していることから、サトウキビのエタノール生産への仕向け割合が上昇するとの見通しの下、砂糖生産量は3014万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同3.7%減）とやや減少し、輸出量は1950万トン（同7.0%減）とかなりの程度減少すると見込まれている。

ブラジル大統領、メルコスール改革に乗り出す

南米南部共同市場（メルコスール）(注) は７月17日、首脳会談を開き、６月下旬に政治合意したEUとの自由貿易協定（FTA）について、各国の批准手続きを速やかに進めていくことを確認した。また、今回の会談の中でブラジルのジャイル・ボルソナーロ大統領は、域内関税の撤廃を目的として発足したメルコスールにおいて自動車（自動車部品を含む）と砂糖がいまだに例外品目扱いとなっている現状に触れ、「（対外通商交渉で関税撤廃を求める）われわれの中で実現できていない品目があるのは、道理に合わない」と述べ、メルコスールの枠組みや運用の見直しに着手することを示唆した。

現地報道によると、同大統領は、かねてよりメルコスールの枠組みに縛られずに２国間の通商交渉を進めたい考えを示しており、メルコスール改革の方向性についてはすでにアルゼンチンのマウリシオ・マクリ大統領の支持を得ているとされる。

（注）外務省によると、メルコスールは域内の関税撤廃などを目的に発足し、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ、ボリビアの６カ国が加盟している。ただし、ベネズエラは加盟資格停止、ボリビアは各国議会の批准待ちで現在議決権はない。

表２　ブラジルの砂糖需給の推移

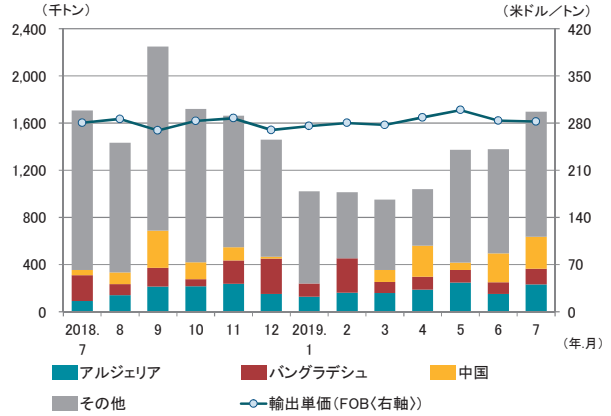
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（7月予測）	2019/20（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		8,488	8,617	8,649	8,473	8,473	▲ 2.0
サトウキビ生産量		651,841	641,066	620,825	624,000	629,000	1.3
砂糖	生産量	41,670	41,490	31,300	30,921	30,139	▲ 3.7
	輸入量	4	2	3	3	3	▲ 9.6
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	10,635	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,969	20,287	19,504	▲ 7.0
	期末在庫量	1,022	636	336	411	339	0.9
	期末在庫率	2.5	1.5	1.1	1.3	1.1	0.06 ﾎﾟｲﾝﾄ増

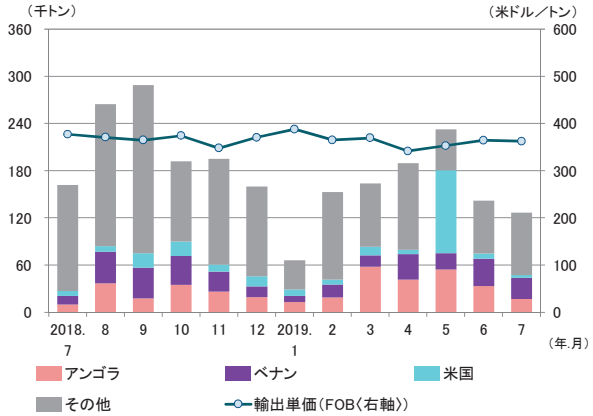
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３位を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：505万ha（前年度比4.7%増）
生 産 量：３億9929万トン（同2.3%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：3558万トン（同1.5%増）
輸出量： 514万トン（同2.2倍）

2018/19年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は、サトウキビの買い取り価格が引き上げられたことに伴う生産意欲の高まりにより505万ヘクタール（前年度比4.7%増）とやや増加すると見込まれている（表３）。一方、サトウキビ生産量は主要生産地における干ばつや害虫被害の影響でサトウキビの生育が停滞しているため、３億9929万トン（同2.3%減）とわずかに減少すると見込まれている。

砂糖生産量は3558万トン（同1.5%増）とわずかに増加すると見込まれている。輸出量は、インド政府が製糖業者に対し輸送費などへの助成措置と引き換えに500万トンの最低輸出義務を課していることや、インド製糖協会（ISMA）が同政府の支援

を受けて中国、マレーシア、インドネシアなどの商社との間で覚書を締結し、輸出拡大に向けた環境が整いつつある状況を踏まえ、514万トン（同2.2倍）と大幅な増加が見込まれている。

砂糖の調整保管を400万トンに増加し、引き続き実施へ（注1）

インドの政策決定機関である内閣経済対策委員会は７月24日、長引く砂糖の国内価格の低迷に対処するため、８月１日から砂糖の調整保管を400万トン規模で実施する計画を承認した。今回の措置は製糖業者に対し在庫の保管に係る経費を補助するもので、その総額は最大で167億4000万ルピー（291億2760万円）と見込まれている。

同委員会の発表によると、インド政府は2018年７月１日から300万トン規模の調整保管を１年間実施し、国内の砂糖価格の上昇、製糖業者の経営状態の改善、農家に対するサトウキビ代金の支払い遅延の解消などを図ったが、結果として十分な効果が得られなかった。このため、調整保管の規模を300万トンから400万トンに拡大し、これらの問題の解決に引き続き取り組むとしている。

なお、同委員会は同日、2019/20年度におけるサトウキビの最低買い取り価格（FRP）（注2）を３年ぶりに据え置き、100キログラム当たり275ルピー（479円）とすることも発表した。

（注１）詳細は、当機構のホームページの海外情報「砂糖の調整保管を400万トン規模で実施へ（インド）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002492.html）をご参照ください。

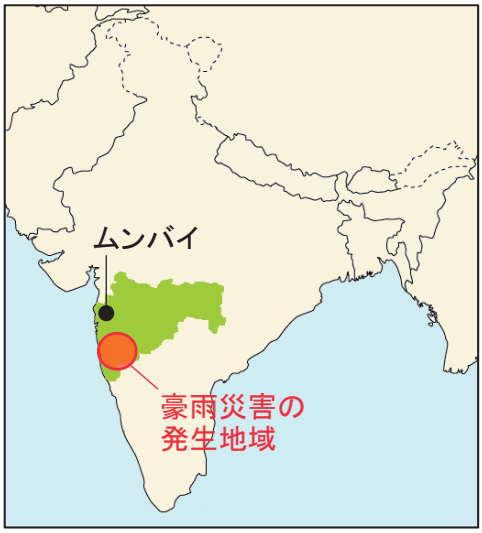
（注２）砂糖の生産コストなどを基に政府が算出する価格で、サトウキビを同価格より安く買い取ることが禁止されている。

マハラシュトラ州の砂糖生産量、2019/20年度は半減する可能性

現地報道によると、８月上旬、砂糖生産量が国内第２位のマハラシュトラ州の西部沿岸地域（図３）において、豪雨による河川の氾濫などで47万人もの住民が避難する大規模な浸水被害が発生し、周辺の９万ヘクタール以上のサトウキビの圃場（ほじょう）が冠水した。

同州に拠点を置く製糖業者らで組織する団体によると、同州における2019/20年度の砂糖生産量は今回の豪雨災害に加え、６～７月にかけ干ばつに見舞われたことも重なり、前年度比約50％減の520～550万トンまで落ち込む可能性がある。

図３　豪雨災害の発生地域



注：緑色の網掛け部はマハラシュトラ州を示す。

表３　インドの砂糖需給の推移

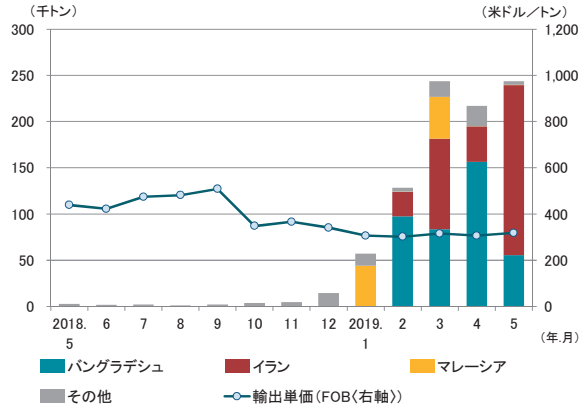
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19（7月予測）	2018/19（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		4,806	4,327	4,825	5,052	5,053	4.7
サトウキビ生産量		356,871	323,556	408,655	399,380	399,287	▲ 2.3
砂糖	生産量	27,091	21,848	35,043	35,475	35,583	1.5
	輸入量	2,146	2,536	2,306	350	550	▲ 76.2
	消費量	26,784	26,568	26,929	27,460	27,460	2.0
	輸出量	3,955	2,233	2,361	3,698	5,140	117.7
	期末在庫量	8,370	3,952	12,012	16,355	15,545	29.4
	期末在庫率	27.2	13.7	41.0	52.5	47.7	6.7 ﾎﾟｲﾝﾄ増

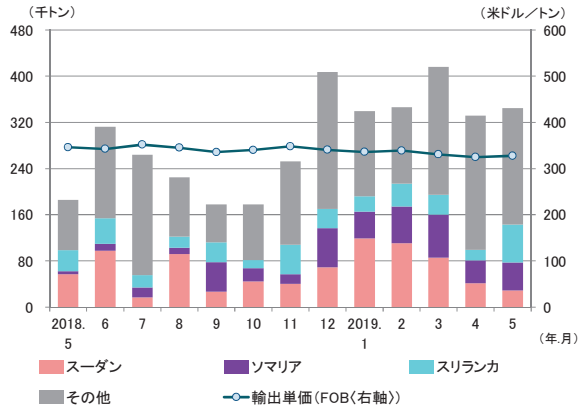
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３位を表示。

中　国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：122万ha（前年度比1.0%減）
生 産 量：7859万トン（同2.4%増）
【てん菜】
収穫面積：24万ha（同30.5%増）
生 産 量：1167万トン（同21.7%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】
生産量：1164万トン（同4.4%増）
輸入量：　454万トン（同25.7%減）

2018/19年度、輸入量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれる一方、生産量は7859万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表４）。てん菜については、政府がトウモロコシ支援政策を変更(注)したことでトウモロコシ価格が低下したことを受け、内モンゴル自治区などの生産者がてん菜への転作を進めていることなどから、収穫面積は24万ヘクタール（同30.5%増）、生産量は1167万トン（同21.7%増）と、ともに

大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、原料作物の増産が期待できるものの、天候不順などの影響で平均糖度が平年を下回るとみられることから、1164万トン（同4.4％増）とやや増加にとどまると見込まれている。輸入量は、米中貿易摩擦による中国経済の減速懸念などに伴い輸入量の落ち込みと内需の弱さが目立ち始めている現状を踏まえ、454万トン（同25.7％減）と大幅に減少すると見込まれている。

（注）政府は2016年４月、トウモロコシ備蓄政策について、最低保証価格を廃止し、市場買い付けとする変更を行った。

中国政府、砂糖の1日の摂取目標を「25グラム以下」と定める（注1）

中国国務院（内閣に相当する行政機関）は７月15日、疾病予防・健康増進の推進に資する施策の指針となる『健康中国行動（2019～2030年）』を公表し、健康寿命（注2）を延ばすために必要な取り組みと、達成すべき目標を示した。

この中の食生活の改善に関する項目では、減塩、低脂肪、低糖質な食事を実践して、口腔の健康、適正な体重、健康的な体型を維持する「三減三健」という概念が提唱されている。これを実現させるため、現在国民１人当たり１日平均30グラム摂取している砂糖については同25グラム以下とする目標を定めた。また、６～17歳の子どもの肥満率が10年前と比べ３倍に増加している状況などに鑑み、①子どもの砂糖の適正摂取に向けたガイドラインの策定②砂糖から低カロリー甘味料への切り替えを行う食品メーカーへの支援③砂糖含有量を１日の摂取目標量に占める割合で表示するなどの食品表示ルールの見直しーなどを行うことが明記された。

（注１）詳細は、当機構のホームページの海外情報「中国、砂糖の１日の摂取目標『25グラム以下』と定める－『健康中国行動』－」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002488.html）をご参照ください。

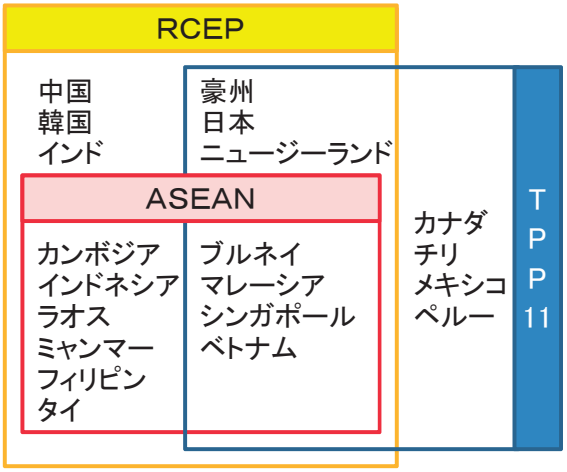
（注２）中国国務院によると、2016年時点での中国の平均寿命は76.7歳、健康寿命は68.7歳である。なお、健康寿命とは世界保健機関（WHO）が提唱した概念で、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のこと。

RCEP閣僚会合、年内妥結を目指すことで一致

東アジア地域包括的経済連携（RCEP）の閣僚会合が８月３日、北京で開かれた。会合後に発表された共同声明では、物品の市場アクセス交渉に関して「対象品目の３分の２以上について参加国のすべてが満足できるレベルにある」とし、残りの品目については年内妥結に向け、建設的な議論を積み重ね、現実的な着地点を模索する姿勢を示した。

交渉の行方は、砂糖を含めた安価な農産物の流入に懸念を示すインドがどこまで歩み寄れるかが鍵になるとみられるが、５月に行われた総選挙でモディ首相が率いる与党が単独過半数の議席を獲得し、安定した政権運営の基盤が整ったことから、関係者の間では早期妥結の期待感が高まっている。

図４　アジア・太平洋地域における経済連携の状況



資料：外務省のホームページを基に農畜産業振興機構作成
注：2019年8月現在。

表４　中国の砂糖需給の推移

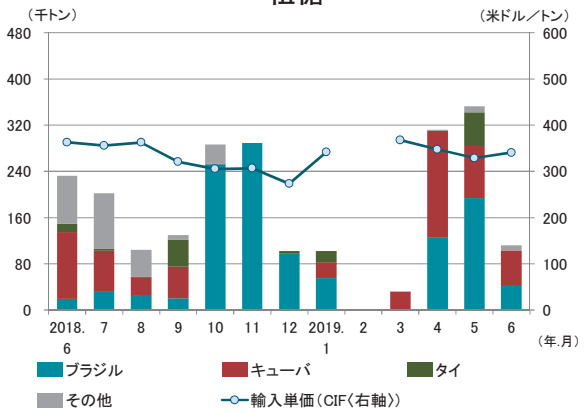
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19（7月予測）	2018/19（8月予測）	前年度比（増減率）
サトウキビ収穫面積		1,311	1,178	1,231	1,219	1,219	▲ 1.0
サトウキビ生産量		74,950	73,690	76,780	78,590	78,590	2.4
てん菜収穫面積		136	168	186	243	243	30.5
てん菜生産量		6,880	8,820	9,590	11,670	11,670	21.7
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,147	11,640	11,640	4.4
	輸入量	7,910	5,715	6,117	6,036	4,542	▲ 25.7
	消費量	16,847	16,847	16,414	17,142	16,522	0.7
	輸出量	181	146	195	174	200	2.7
	期末在庫量	11,926	10,689	11,344	11,084	10,804	▲ 4.8
	期末在庫率	70.0	62.9	68.3	64.0	64.6	3.7 ﾎﾟｲﾝﾄ減

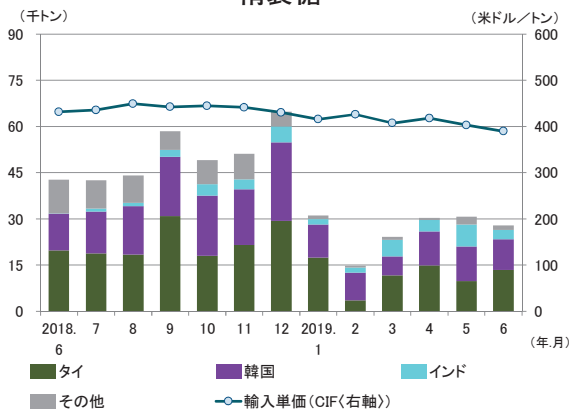
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位３位を表示。
注３：2019年２月の粗糖は、輸入実績がなかった。

ＥＵ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】
収穫面積：171万ha（前年度比1.2%減）
生 産 量：１億1431万トン（同17.4%減）

【砂糖（てん菜糖）】
生産量：1827万トン（同15.4%減）
輸出量： 201万トン（同47.2%減）

2018/19年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のてん菜の収穫面積は171万ヘクタール（前年度比1.2%減）とわずかな減少にとどまるものの、春先の冷え込みによる植え付けの遅れと、その後の少雨で乾燥した日が続いた影響により、てん菜生産量は１億1431万トン（同17.4%減）と大幅な減少が見込まれている（表５）。

砂糖生産量はてん菜生産量の減少に加え、てん菜の平均糖度が平年を下回るとみられることから、1827万トン（同15.4%減）とかなり大きく減少し、輸出量は前年度の砂糖の生産割当撤廃に伴う輸出増の反動で、201万トン（同47.2%減）と大幅に減少すると見込まれている。

FTAに対する反対運動、フランスで先鋭化

６月下旬にEUとメルコスールとのFTAが政治合意に達したことに続き、７月23日にはEU・カナダ包括的経済貿易協定（CETA）がフランス議会で承認された。これを受け、フランス全土でこれらに反対する農民らによる抗議活動の一部が過激化し、議員事務所が放火されたり、与党の地方支部が襲撃されたりする事件が起きている。メルコスールとのFTA批准に反対の姿勢を示しているフランスの農業相は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を通じて一連の行動を起こした農民らを厳しく非難しつつも、「（農民らがメルコスールなどとのFTAに反対する）気持ちは十分に理解している」と述べ、今後は平和的・理性的に行動するよう呼びかけた。

現地報道によると、メルコスールとの政治合意に達した直後は交渉結果を高く評価していた同国のエマニュエル・マクロン大統領も、こうした状況に最近はややトーンダウンし、メルコスールとの貿易協定草案について農業への影響を評価する専門委員会を設置し、その結果などを踏まえて批准するかどうかを慎重に検討していく考えを示した。

なお、メルコスールとの砂糖に関する合意内容は、EUはブラジル産粗糖に対して現行の関税割当数量（33万4054トン）(注) の範囲内で無税の関税割当枠（18万トン）を設けるとされている。これに対しフランスのてん菜生産者は、EUの砂糖市場がすでに飽和状態にある中でさらに安価な輸入砂糖の流入が拡大すると、現在も続く砂糖価格の低迷から抜け出すのが一層難しくなるとの懸念を示している。

（注）ブラジル産粗糖に対する関税割当内の関税率は１トン当たり98ユーロ（１万2054円）、関税割当外の関税率は同339ユーロ（４万1697円）である。

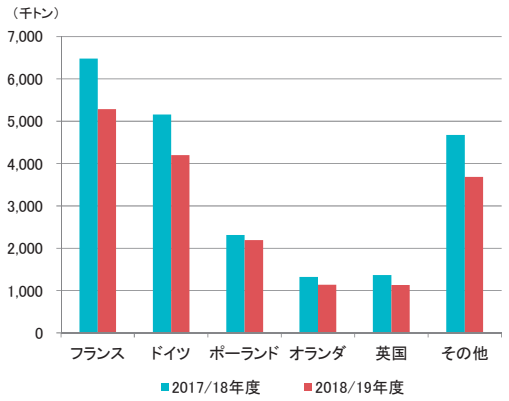
表５　EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

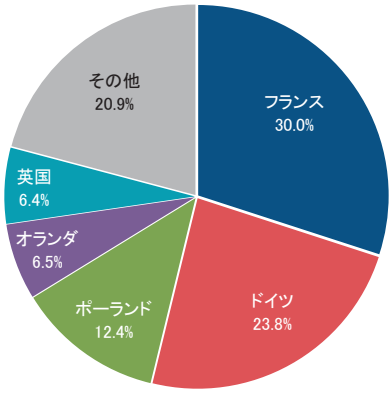
年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19（7月予測）	2018/19（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,364	1,466	1,732	1,713	1,710	▲ 1.2
てん菜生産量		94,855	107,986	138,437	114,389	114,308	▲ 17.4
砂糖	生産量	14,937	17,069	21,578	18,294	18,265	▲ 15.4
	輸入量	3,651	3,117	1,731	2,391	2,432	40.5
	消費量	19,481	19,177	19,219	18,947	19,111	▲ 0.6
	輸出量	1,501	1,510	3,809	1,957	2,011	▲ 47.2
	期末在庫量	2,896	2,396	2,677	2,264	2,252	▲ 15.9
	期末在庫率	13.8	11.6	11.6	10.8	10.7	1.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合（2019年7月時点）



資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2017/18年度および2018/19年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2018/19年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2019年８月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14－110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14－200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1％（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1％（同3.1ポイント増）と、この２カ国で９割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として３カ月に１回の報告とし、今回はフィリピンについて報告する。本稿中の為替レートは１豪ドル＝77円（76.59円）である。

豪　州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：39万ha（前年度比1.3％増）
生 産 量：3154万トン（同3.1％減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：444万トン（同6.1％減）
輸出量：339万トン（同12.8％減）

2019/20年度、砂糖生産量はかなりの程度減少する見込み

2019/20砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビの収穫面積は39万ヘクタール（前年度比1.3％増）とわずかに増加するものの、夏の記録的な猛暑による生育遅れに加え、2018年12月に集中豪雨に見舞われたクイーンズランド州北部を中心に湿害による生育不良の症状が見られることから、サトウキビ生産量は3154万トン（同3.1％減）とやや減少すると見込まれている（表６）。

砂糖生産量はサトウキビ生産量の減少に伴い444万トン（同6.1％減）とかなりの程度減少し、また、輸出量は砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、339万トン（同12.8％減）とかなり大きく減少すると見込まれている。

マッカイ・シュガー社、ドイツの製糖業者からの買収提案を承認

マッカイ・シュガー（Mackay Sugar）社は７月29日、臨時株主総会を開き、ドイツで第２位の生産規模を誇る製糖業者ノルトツッカー（Nordzucker）社による買収提案を承認したと発表した。これにより、ノルトツッカー社はマッカイ・シュガー社の株式の70％を取得することとなる。なお、買収金額は１億2000万豪ドル（92億4000万円）と推定される。

競合他社との価格競争が激化する中、砂糖の国際価格の低迷で輸出不振が長引き、約２億豪ドル（154億円）の債務超過となっていたマッカイ・シュガー社にとって、ノルトツッカー社からの買収提案は渡りに船だったとみられる。他方、ノルトツッカー社は、人口増加や内需拡大を背景に砂糖消費が旺盛な東南アジアに販路を持つマッカイ・シュガー社を傘下に収めれば、世界の成長市場への展開を一挙に拡大することができると判断したとみられる。

現地報道によると、ノルトツッカー社は、マッカイ・シュガー社が所有する三つの製糖工場の大規模な設備改修も計画しており、一層の効率化と合理化を図るとしている。

生産者団体、抗議活動の正当性を国際社会に訴える

クイーンズランド州の生産者団体であるCANEGROWERS(注1)は8月2日、クイーンズランド州政府が州議会に提出したグレートバリアリーフ（サンゴ礁）の保護強化を目的とした「グレートバリアリーフ保護対策法」の改正案(注2)に対し、反対の姿勢を示す自らの正当性を世論に訴えるため、法案の問題点などを指摘する動画を動画投稿サイトなどで公開した。今回の動画の公開は、改正に反対する同団体による抗議活動が国際的な批判を浴びていたこともあり、改正案の内容の問題点を浮き彫りにすることで、なぜ抗議しているのかを地域住民のみならず、国際社会にも理解してもらうのが狙いとみられる。

動画の中で同団体は「われわれは10年以上も、農地からの農薬や肥料の流出量を自主的に規制し、グレートバリアリーフ海域の水質改善に貢献してきた」と述べ、サンゴ礁の白化現象(注3)の原因がはっきりしない中での州政府による規制の強化は、「砂糖産業への不当な狙い撃ち」と非難した。

（注１）CANEGROWERSは1934年に設立され、クイーンズランド州のサトウキビ生産者の４分の３が加入している。

（注２）改正案は、産業界の自発的な取り組みの推進に重きを置く現行法を見直し、施用した肥料や農薬の量と種類を詳しく州政府に報告させることや、圃場からの肥料・農薬成分の河川や地下水への流出を厳しく規制するなど行政の関与を強める内容となっている。

（注３）水産庁によると、白化現象とは、サンゴ礁を形成する造礁サンゴに共生している「褐虫藻」と呼ばれる藻類が失われることで、サンゴの白い骨格が透けて見える現象。白化した状態が続くと、サンゴは褐虫藻からの光合成生産物を受け取ることができず、壊滅する。

表６　豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（7月予測）	2019/20（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		368	376	380	385	385	1.3
サトウキビ生産量		36,506	33,344	32,566	31,585	31,543	▲ 3.1
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,443	4,437	▲ 6.1
	輸入量	68	29	30	91	30	0.0
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,089	1,089	2.0
	輸出量	4,004	3,601	3,890	3,442	3,391	▲ 12.8
	期末在庫量	969	747	544	1,025	531	▲ 2.3
	期末在庫率	18.8	15.8	11.0	22.6	11.9	0.9ﾎﾟｲﾝﾄ増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タ　イ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：179万ha（前年度比0.1%増）
生 産 量：１億3097万トン（同2.9%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：1546万トン（同0.8%減）
輸出量：1060万トン（同5.1%増）

2018/19年度、輸出量はやや増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は179万ヘクタール（前年度比0.1%増）と横ばいで推移すると見込まれるものの、サトウキビ生産量は台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが

発生した影響を受け、1億3097万トン（同2.9%減）とわずかに減少すると見込まれている（表7）。

砂糖生産量は、気象被害が少なかった東北部のサトウキビの平均糖度が平年を上回り、サトウキビの減産分を相殺するとみられることから、1546万トン（同0.8%減）と横ばいで推移すると見込まれている。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するために輸出を強化するとみられることから、1060万トン（同5.1%増）とやや増加すると見込まれている。

タイ政府、糖類を含む飲料への課税措置の増税への準備を促す

タイ政府は7月下旬、飲料メーカーなどに対し糖類を含む飲料への課税措置について2019年10月1日から予定通り増税することを改めて周知した。この課税措置は、健康増進政策の一環として2017年9月に導入され、100ミリリットル中の糖類含有量が6グラム以上の飲料（ペットボトルや缶などの容器に入ったもの）が課税対象となっている。糖類含有量に応じて税率が異なり、課税対象商品を販売した飲料メーカーや輸入業者が納税する仕組みである。10月1日以降、同10グラム未満のものは税率が据え置かれるものの、それ以上のものは最大で税率が5倍となる。このことから、政府は飲料中の糖類含有量のさらなる低減に寄与することを期待している。

タイ保健省によると、タイの国民1人当たりの砂糖摂取量は1日平均110グラム以上と世界保健機関（WHO）が推奨する基準（同25グラム程度）の約4倍となっている。同国の消費者団体は、「屋台やショッピングモールのフードコートなどで客の注文に応じて1杯ずつ作られる飲み物の中には、1杯でWHOが推奨する基準を超える砂糖が含まれているものがある」と注意喚起しているものの、こうした飲み物が課税の対象になっていないことから、疾病予防の専門家などの間では現行の課税制度が砂糖摂取の低減につながるのか懐疑的に見る向きもある。

表7　タイの砂糖需給の推移

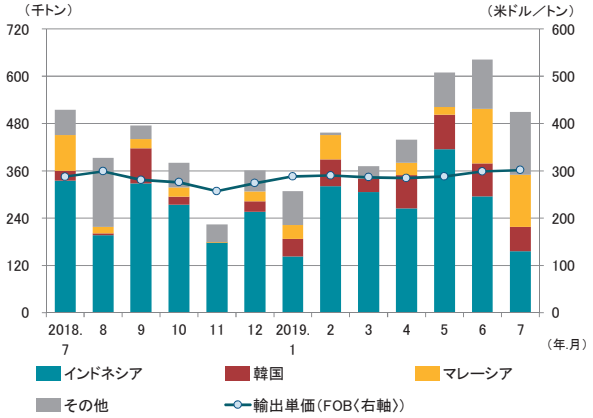
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19（7月予測）	2018/19（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,644	1,578	1,790	1,792	1,792	0.1
サトウキビ生産量		94,047	92,951	134,929	130,970	130,970	▲ 2.9
砂糖	生産量	10,402	10,657	15,586	15,457	15,457	▲ 0.8
	輸入量	1	0	6	3	3	▲ 49.0
	消費量	3,272	3,283	3,347	3,140	3,564	6.5
	輸出量	7,932	7,393	10,077	12,183	10,596	5.1
	期末在庫量	3,970	3,951	6,119	6,255	7,418	21.2
	期末在庫率	35.4	37.0	45.6	40.8	52.4	6.8ﾎﾟｲﾝﾄ増

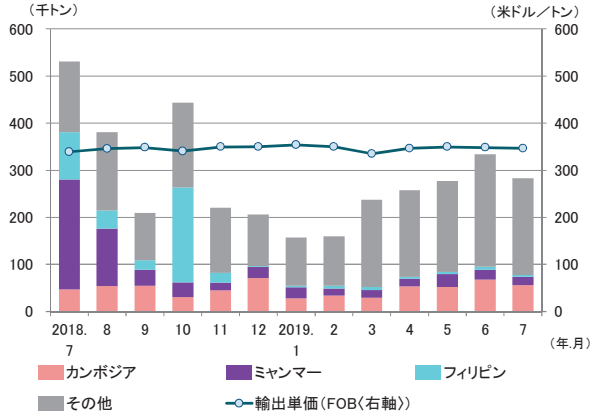
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３位を表示。

フィリピン

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：42万ha（前年度0.8%減）
生 産 量：2175万トン（同8.8%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：207万トン（同0.5%減）
輸出量：　13万トン（同39.0%減）

2018/19年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は42万ヘクタール（前年度比0.8%減）と横ばいで推移すると見込まれている一方、サトウキビ生産量は主要生産地で乾燥した気候が続いたことから、2175万トン（同8.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれている（表８）。

砂糖生産量は、サトウキビの平均糖度が平年を上回り、サトウキビの減産分をカバーするとみられることから、207万トン（同0.5%減）と横ばいで推移すると見込まれている。輸出量は、国内供給を優先するとみられることから、13万トン（同39.0%減）と大幅に減少すると見込まれている。

フィリピン政府、飲料メーカーなどに対し砂糖輸入を許可

フィリピン政府は８月１日、各地で頻発する干ばつや洪水などの影響により、砂糖生産量が２年連続で同政府が定めた目標を下回ったことを受け、飲料メーカーや小売業者などに対し最大25万トンの精製糖の輸入を許可すると発表した(注)。

フィリピンでは、製糖業者の重要な収益源の一つになっている米国向けの砂糖輸出について、FTAに基づき設定されている関税割当数量（TRQ）14万トンを前年度に続き今年度も消化できない可能性が明らかになるなど、砂糖に対する需要が高いにもかかわらず、国内生産だけでは供給を賄えないことが問題視されている。近年の砂糖生産の落ち込みは、天候の影響に加え、人手不足による管理の粗放化が進み、サトウキビの生産基盤が弱体化しているためと指摘する声もある。

（注）フィリピンでは、砂糖の需給管理・調整を図る観点から砂糖の輸入量は、砂糖統制委員会（SRA）によって管理されている。消費サイドである飲料メーカーや小売業者などは、砂糖を自由に輸入することができなかった（再輸出を目的とした輸入は除く）が、2018年に大統領の行政命令に基づき輸入管理に関する規制が大幅に緩和された。ただし、輸入できる時期や用途に応じて上限が定められている。

表８　フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19（5月予測）	2018/19（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		413	421	418	423	415	▲ 0.8
サトウキビ生産量		23,254	28,052	23,861	23,000	21,750	▲ 8.8
砂糖	生産量	2,239	2,506	2,084	2,079	2,072	▲ 0.5
	輸入量	441	123	304	420	452	48.6
	消費量	2,347	2,277	2,323	2,387	2,347	1.0
	輸出量	168	283	205	213	125	▲ 39.0
	期末在庫量	526	594	454	345	507	11.6
	期末在庫率	20.9	23.2	18.0	13.3	20.5	2.5ﾎﾟｲﾝﾄ増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。